



消防だより

3月の広報テーマ

「応急手当の普及啓発の推進」

119

応急手当の普及

急

病や事故などで心肺停止になった人を救うには、救急車が到着するまでの間に、そばに居合わせた人（「バイスタンダー」といいます。）が速やかに心肺蘇生の応急手当を行う必要があります。

競技中に選手や観客が急に倒れ心肺停止状態になったとき、備え付けてあったAED（自動体外式除細動器）をバイスタンダーを使って心肺蘇生を行った結果、一命が救われた記事を新聞等のマスコミ報道で目にすることがあると思います。



早い119通報 おちついて、はっきりと119番に通報する
早い応急手当 救急車到着前の早い心肺蘇生と早い除細動
早い救急処置 救急救命士等の行う高度な救急処置
早い救命医療 医療機関における高度な救命医療

救命のリレー

を受講していただきたいと思います。

救急車を必要と
している人がいます

救

急車は、ケガや急病などで緊急に病院に搬送しなければならぬ人たちのためのものです。緊急性がないのに救急車を要請すると、本来に救急車が必要とする事故等が発生した場合、近隣の市町から救急車が出動することになり、到着が遅れ救える命が救えなくなる恐れがあります。

このため、緊急性がなく自分で病院に行ける場合は、救急車以外の交通機関を利用するなど正しい救急車の利用を心掛けてください。



地域に密着した

消防団活動

消

消防団員は、災害時には消火活動はもとより、災害現場



消防団の訓練風景

の警戒、被災者の救助、行方不明者の捜索など、その町に居住しているからこそ知っている地理や地域の情報を消防団活動に生かして地域に密着した活動を行っています。

災害のない平常時には、消火訓練や災害を想定した訓練などを行い、災害が起こったらいち早く現場に駆けつけていつでも災害活動に付けるように鍛練しています。

また、近年では女性消防団員の活動の場も広がっています。災害時にいかに適確に対応することはもちろんのこと、町内の高齢者住宅の防火査察を行い、女性ならではのソフトな対応は「ホットする」「話し方が優しい」「身近に感じる」など地域のお年寄りからも歓迎されており、今後の一層の活躍が期待されています。

消防団は、地域の安心・安全を守るために活躍しています。これからも地域の幅広い層から多くの方々は、消防団に参加されることをながめています。

お願い！
「火災時の問い合わせ！」

119番は、火災や救急などの緊急通報専用電話です。問い合わせに使用しないでください。火災などの問い合わせは、災害案内テレホンガイドの☎74・3210番をご利用ください。

統一標語
「火のしまつ
君がしなくて
誰がする」

fire

1月の

● 火災件数

● 救急件数

1件

36件